

長唄地における

娘形作品の技法的研究

丸 茂 祐 佳

現在、日本舞踊界では、公演活動が盛んである。多くの舞踊家は、古典はともかくも、新作・創作という分野の判明しがたい状態に、ちゅうちょしているのではないだろうか。それは、どこまでが日本舞踊の技法で、どこまでが外国の舞踊の技法か、という点についてである。この懸念は「舞踊は人間の感情を身体で表現する」という芸術的な理念を既に体得し、創造活動を行なっている第一線の舞踊家にとっては、何ともしまらないことだと思いかも知れない。が、舞踊家を志す未熟なものが必ず一度はつき当たる問題であると言って過言ではない。

しかし、日本舞踊が技法的な方面の理論を持っていれば、かほどまでの混乱をみずに済んだのではないだろうか。現在の段階で、日本舞踊の技法を整理するのは容易なことでない。というのは、日本舞踊の作品自体が、曲種・題材・時代等によって、さらに細部を追究すれば、流派がどのような環境で、またどのような存在として作品を伝承してきたかによっても、個々の舞踊のあり様が微妙に違って来るからである。

よってこの研究は、「娘形の徹底した基準・尺度なり」を探究することを将来の目的としたものである。

〈研究方法と目的〉

(1) 研究対象作品 長唄地の娘形の舞踊として、一般的な稽古で習う作品「手習子」「官女」「藤娘」「晒女」(別称「近江のお兼」)「汐汲」「鷺娘」「浅妻船」「娘道成寺」(但し藤間寿右衛門系への振)を対象とした。

(2) 作品の分析方法と目的 従来の五段構成——オキ・出・クドキ・踊り地・チラシ——に準じているが、

第Ⅰ段階に“出”

第Ⅱ段階に“出”と“クドキ”の間の踊り

という構造にした。
次に、古来各流に伝えられている一般的な五つの技術用語おくり・なんば・おすべり・そり・ひねりの数の統計を構造ごとにとり、その振りについて、性格・特色・意味を検討し、各作品の印象との関係を探った。

a. おくり 注。()内は「西川流秘伝書」の中の「妓楽踏舞譜」の術語の名称。

動作の強調…笠の縁を撮む、田子の棹の先を叩く、傘をさす・持つ・抱く、指折り数える、手をかざす(以上送)、呼ぶ(体送)等

説明的動作…手・桶・手がぎで指す(指扇の部の送)、両手・袂で指す(色の部の送)等

物真似表現…波(伊達送)

感情表現……思いに引かれる、引っ張られる、重みで下がる(以上退送)等

女らしさ……袖を口元に当てる、手ぬぐいを持つかぶる(以上仮名送)等

b. なんば

技法………世々(世間、オヒロメ)、隈取(隈切)

動作の強調(具象)…イヤイヤ、袖を抱くように合わせる、指す、ぶつ等

動作の強調(抽象)…袖・手を左右に開ける、袖口を撮んで差し出す、袂を左右に開ける・胸に当てる、手を顔の脇に出す等

必然的動作…鼓を打つ、手ぬぐい・傘をたぐる、振鼓を振り落とす、よける等

感情表現……肩をすくう(小生意気さ、強さ、蓮葉さ)、気取った歩き等

女らしさ……肩を押すように速間で出る(袖口叩く、袂を組む、拝み手)、肩を振るように速間が出る(手ぬぐいを下でヒラヒラさせる、狩衣を抱く)等

女らしさ……肩を押すように出る(鼓を戴く、手ぬぐいを持ち腕を組む、相手の腕を組んだつもり、狩衣を持つ、袖を伸ばす、襟をとる、相手の胸元をとったつもり等)

c. おすべり

技法………禿手(袂を肩にかつぐ)ですべる

動作の強調(具象)…イヤイヤ、まりをつく、手ぬぐいをしごく、拝み手、揉み手、指す、手を枕にする、船を漕ぐ、人さし指で草の手等

動作の強調(抽象)…袖・手の開閉、小道具・手ぬぐい・袂で∞を描く、小道具を左右・上下にする両手を胸に当てる、こぶし・振鼓を交互に胸に当てる、開いた手・笠・バチ・振鼓で草の手、すもう手、帯に手をまわす、槍の技法の模倣、お草紙を平らに持つ、肩をすくう、すぼめた傘を肩にかつぐ、中啓を顔脇に控える等

美の強調………藤の花の枝で∞を描く、傘をクルクルとまわす、晒を振る、振り出した笠をかつぐ等

準備動作………2つおすべりし次の動作に移る

物真似表現……蝶々、船からの景色、船体、波
感情表現……かくれる、抱く、ぶつ、手ぬぐ
い・手かぎを下に垂らし巻く(よじよじさ)、懐
手・手を組む(蓮葉さ)、人さし指・中指を握る・
からませた小指でかくれる、手を叩く、目をこ
する、袂・袖口を見る等
女らしさ……のしほすべり(両手・両袂を開ける、
手ぬぐいを顔にかけ両手をひろげる等)

d. そり

技法……四まわり、かいぐりしあけて決る、
姫振
美の強調……振り返って見る・眺める、後向にて
決る(髪に手をそえる、両袖を羽のようにひろ
げる、三階傘を背負う、 \wedge 型を描きすわる)、く
ぐる、上を見る等
必然的動作……晒をふる、振り出した笠をくぐる、
すわって振鼓を両脇から振ってくる等
物真似表現……狐
感情の強調……必要以上にそる(振り下げ帯を持つ、
袂をかつぐ、船を漕ぎ引き寄せる、流れる水を見
る、手を組み目に当てる、膝でにじりながら
振り返る、仰向きに寝る、小指でかくれる、鏡
に写す、よける、鐘を見上げる、横ずわりで相
手の胸元をとったつもり、相手に引かれるつも
り、狩衣を相手に見立てたつもりで見る、髪に
手をそえる等)
感情表現……かくれる
娘らしさ……振り返りトコトンと踏む(袂をかつ
ぐ)
女らしさ……振り返るように2つ下がる(伸ばし
た両袖・ひろげた手ぬぐいを後方にやる、袂を
かつぐ、手ぬぐいを肘にかける等)、振り返りト
コトンと踏む(襷をとる)、のしほすべり

e. ひねり

技法……八文字を踏むように出る(道中)、姫
振、巴まわり
形の強調……おひねりの大部分
物真似表現……引首に付随する(鳥、狐)
感情の強調……手ぬぐいを口にくわえる(くやしき)、
拝み手(哀顔)、引首で鐘を見る等
娘らしさ……袖を伸ばす、袖・扇を口元に当てる、
袂を組む、交差させて持つ等
女らしさ……手ぬぐいを口元に当てる

〈 結 果 〉

つまり、動きだけをとれば何の意味を持たない動
作が、作品の上ではドラマチックに、かつ情感豊か
な振りとなって表出されている。そして、五つの動
きをもとにした振りの配分が、娘形作品の構造ごと

の印象と一致するのである。

未熟ではあるが、今回の研究で対象の作品が、藤
間流の振りに留まっていることを遺憾に思う。この
研究が、いずれは普遍的な娘形の研究となるよう、
先輩諸氏の助言・協力を願い、かつ一人でも多くの
共同研究者が現われるのを期待する次第である。

最後に、この研究に助言・協力を頂いた目代清先
生、駒井義之先生、藤間紋寿郎先生に御礼を申し上げ、締め括りとしてたい。